

## 平成29年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	地域の伝統文化を生かした共同教育推進事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授 洞谷亜里佐
3 学外の連携機関等	准教授 安部泰 准教授 伊藤将和 (連携機関等名) 上越市企画政策部 (担当者職名・氏名等) 参事 阿部俊和、係長 石黒厚雄、大野瑛子 (連携機関等名) 雁木のまち再生(一般社団法人) (担当者職名・氏名等) 代表理事 関由有子
4 事業の趣旨・目的	地域文化を見直す実技体験の中で、雁木町家の活用による教育普及活動へと広めていく方針である。そしてその繋がり役割として上越教育大学の教員と大学生が、地域のものづくりなどの伝統文化活動に関わり、職人の指導のもとに助言を行っていく。また、大学生企画による造形ワークショップを行うことで、生活に息づく鑑賞教育を提案する。このように、伝統文化教育の講座を町家と大学との連携で展開することにより、雁木という地域文化を生かした特色ある学習プログラムを開発する。
5 事業活動報告	上越市の雁木町家で教育事業を行った。 ① 上越市企画政策課と教員が、町家の活用について、月1回ぐらいのペースにて話し合うを設けた。その一環として、シェアハウスの「漆喰壁を塗るワークショップ」(5月13,14日)が行われ、学生たちは、地域の左官職人から、漆喰の素材に関わる講義を受け、職人や市民の人達と共に漆喰壁を完成させた。 ② 雁木町家「旧今井染物屋での職人の指導によるワークショップ企画では、「伝統文化教育の講座を町家で行い生活に息づく鑑賞教育を行う」趣旨での活動を当初企画していたが、天候の都合上、高田小町を会場として、「日本家屋と日本画について」の講義と塗り絵ワークショップを行った。 講師；山崎宏(日本画家) 日時；12月10日(日) 9:00~15:00 1部学生,2部一般 計30名
6 本事業で得られた成果	地域社会と学校教育を融合させたものづくり教育を広く提示する事ができた。 町家では、地域の伝統文化を見直す実技体験を、職人や表現者を通して、学校教育、地域社会へと教育普及活動を広めていく活動ができた。 そして実習体験や鑑賞教育により、自分たちの地域での暮らしから感じる身近な文化を再認識できた。 ① この事業に本学学生を積極的に登用することで、「地域の文化、雁木町家との連携」についての見識を高め、教育者としての資質を向上させることができた。 ② 日本の伝統文化理解教育の意義を明確化することにより国際的な意識への啓発を図ることができた。

7 その他 (成果物等の名称)	
-----------------	--

提出期限：平成30年4月13日（金）